

菜の花

床の間に菜の花が生けてある。庭に咲いていたものをと思うのだが……。「こんな所で、よく淋しくないのね」

「淋しいわ。どうか私を仲間の多い麓の村へ連れて行ってください」

志賀直哉の菜の花と小娘の会話を思い出した。

季節が訪れると花は咲き、枯れて土となり肥料となる。そこに木が生え林となり、時の流れが森を広げてゆく。この大自

然の運行に逆らわずに素直に生きることこそ大事、と教えられる。

ところが人間というものは悪いということばかりかかっていながら、つい悪いことをやってしまうものなのである。あれはいけない。これはいけないと善という名の規制が強すぎると反発をしようしてしまうことがある。私は煙草を吞まないし、当社では喫煙を禁止しているが、愛煙家が悪人かのような法律による規制には首をひねってしまふ。じつは子供の問題と似ていて、厳しい父親と暖かい母親の適当なバランス

の中で子供は自分なりに生き方を学ぶようになるのではと思っている。厳しいだけでは発散できないだろう。

素直に生きるということとはなかなか至難なことである。キリスト教の使徒パウロが、「なぜ自分の欲している善は行わずに欲していない悪を行うのだらう」という言葉がある。聖人にしてそうなのだ。さて、クールマイルドでも吸ってみるか。

新授与所竣工のご案内

奉告祭 四月一日午前十一時

○月次祭に併せて行います
先着百名昇殿参拝記念品授与